



月刊

# オリーブ

2024

4

Vol.107

— 真の更生を目指して —

## 3月3日「門司港レトロ聖書フォーラム」創立7周年記念会に出席して

オリーブの家創立4周年は「熊本国際交流会館」、5周年は「熊本学園大学高橋守雄記念ホール」、それぞれ記念会を行い多くの方に祝福を頂きました。

10年目は大きな節目ですからそれなりのイベント企画もありました。しかし、何故か10周年記念会への強い思いが私に湧き出てきません。そんな折、届いたのが門司港レトロ聖書フォーラム創立7周年記念会の情報でした。

「3月3日」を特別の日としてきたオリーブの家でしたが、新たに門司港レトロ聖書フォーラム創立7周年記念会がその日に加わったのです。

洗礼式、礼拝、祝会共に主のご臨在の中で導かれ、主の御名を崇めました。礼拝では宜野湾聖書フォーラム（BF）の下地牧師のメッセージ、私は祝会での祝辞を述べさせて頂きました。3月3日は私達夫婦の結婚記念日ですからその報告をしたところ皆さんから温かいたくさん祝福を頂き大

変恐縮した次第です。サムエル・カンさんの素晴らしい賛美と、子供さんを交えたファミリーの手話ダンスは、参加者全員が立ち上がり主を賛美しファミリーと共に踊れたことがとても感謝でした。

祝会では受洗された姉妹の喜びの証し、又それぞれの体験を通した皆さんの証は7年間の神様と真剣に向き合っている万人祭司の歩みそのものでした。そして、何より仲間たちへの信頼に満ち溢れているのです。どんな時にもブレない皆さんの姿勢。お金がある時もない時も、仲間が多い時も少ない時であつても愛を持って支え合う聖書に出てくる仲間たちの姿です。

不思議にも門司港BF、熊本オリーブの家BF、サムエル・カン・ミニストリーズ、そして宜野湾BF、九州地区4グループが初めて一堂に集うことが出来た事はオリーブの家の10周年記念会ではなく、神のご計画はこれだ、皆が一堂に集まる事、これが神のご計画だった！と妙に納得できた私です。



オリーブの家庭事長  
青木康正

「神が素晴らしい事をしようとされるとき、困難から始められる。それがとても素晴らしい事であるときは、不可能から始められます。（チャールズ インワード牧師）」

聖書は教えます。  
先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたはそれを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。

（イザヤ書 43章18〜19節）

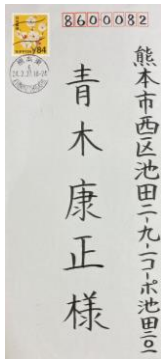
最後にマザーテレサの言葉をお分ちします。  
『思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか人格になるから。人格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。』

## ファミリーの声

私の近況を報告いたします。昨年

応募しました法務省九州管区の文芸作品コンクールの審査結果が先日告知されました。読書感想文部門で金賞受賞いたしました。受刑生活25年、初めて応募しましたがまさかの初回で賞がいただけるとは思っていませんでしたので、とてもびっくりしました。合わせて応募したペン習字の方が本命でしたが、こちらは選外でしたのもっともっと練習し今年はペン習字一本に絞って応募しようと考えています。何の取り柄もない私でも一生懸命努力すれば何歳になっても向上することができると今回の件で実感しました。これからもこの受刑生活を少しでも有意義なものになるよう目標を持って日々努めて参ります。今後ともお力添え賜りますようお願い申し上げます。

(Y・Yさん)



いつもいただく封書は、それ自体お手本となるような素晴らしい字体なのでペン習字部門で選外とはちょっと驚きです。次回は必ず金賞を取ると確信しています。

青木康正



主の御名を賛美致します。改めて新年あけましておめでとうございませう。今年もよろしくお願い致します。新年早々石川県の能登半島に大きな地震が起きてしまいました。たくさんの犠牲者、行方不明の方々に心が痛むばかりです。神様に一人でも多くの救済、執り成しを祈るしかありません。今年も書道に励みます。新年の慶びと、そして何よりも、青木さんの誕生日のお祝いに書一枚を送ります。青木さんおめでとうございませう。

「盡人事聽天命」「人事を尽くして、天命に聴(まか)す」。(人事を尽くして、天命を待つ)の元々の意味だそうです。心を込めて書きました。どうかお受け取り下さい。

私も今年一年私のできる最善を行い、その上で神様の執り成しお導きに全てを聴(まか)す、ことに致し

ます。何も思い煩う必要は無い。主イエス様が常に私と共にいて私に寄り添って助けてくださること。その確かな愛、友情に委ねてお任せして歩いて行きます。そして今年もオリブの家を引き続き神様の恵み、お導きが豊かに注がれることを心から祈ります。いつもオリブの家には聖霊が宿り、満たされていることを私は青木さんのお手紙や、月刊オリブで読んでいて肌で感じています。とにかく私たちが信仰を持って最善を行い、後の事は成功しても失敗しても何事も神様にゆだねて一切を任せたいれば間違いないことです。勇気を持って、かたく信仰に踏み止まりましょう。お体ご自愛ください。

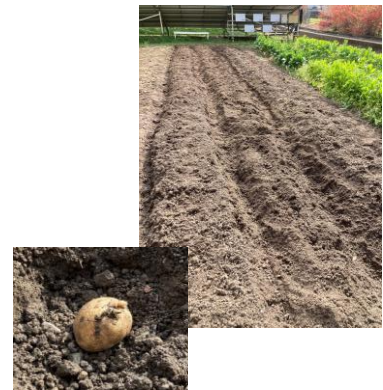
(H・Hさん)

長い刑期を務める(H・H)さんですが文通で、面会で、彼に平安の日々が与えられるよう伴走を続けます。

青木康正



## 3月の農園だより



鳥の囀りが聴こえる季節となりました。農園長の私には、「もう春だよ！次に植える準備は終わったかい！」と聞こえます。その声に背中を押され、新人スタッフ(光弘さん)の手を借りて、畑を耕し、米ぬかを撒き、畝を作り、種や苗を準備し、じゃがいもを植えました。一方、大根も大きくなってきたので、味噌汁やコンソメにと活用されています。50本ほどを干して漬物にと作業中です。農作業の面白さを堪能する日々です。

(農園長)



# 支援者からの

## 寄稿



### 東日本大震災から熊本大会まで

日本グループホーム学会

仙台大会事務局

横谷 聡一

#### 1. はじめに

はじめまして。日本グループホーム学会  
仙台大会の事務局を務めさせていただきま  
した横谷 聡一と申します。普段は宮城県仙  
台市にある社会福祉法人みんなの広場で、  
精神に障害のある方の支援を中心としたグ  
ループホーム、生活介護、就労継続支援B  
型の福祉事業を9か所運営しております。  
1950年代に皆様も聞いたことがある  
と思いますが、ノーマライゼーションの理  
念が世界中に広がりました。障害のある方  
が「集団から個人」、「管理から支援」、  
「大規模施設から地域生活」への動きと  
なり、我が国においても障害のある方が地  
域での暮らしを実現するため、1989年に  
障害者グループホーム制度が誕生しました。

オリーブの家がグループホームの運営を  
行っているように、全国各地のグループホ  
ームにおいても一軒家、アパート、マンシ  
ョン、大家さんが建てた建物を賃貸したり、  
自己所有の建物でグループホームを運営す  
るグループホームが全国に広がり、グルー  
プホームで暮らす障害のある方は、全国に  
現在14万人以上となりました。

今年、石川県で発生した地震による被災  
地の方々の無事を心から祈っておりますが、  
グループホームは住まいであり、いざ大き  
な地震があった時につながりがないと大き  
な影響が出ると思います。東日本大震災時  
のグループホームでは大きな窮状を迎えま  
したが、その当時グループホームの横のつ  
ながりが全くなく、孤立感を強く感じなが  
ら支援が長く長く続きました。2017年  
に仙台で日本グループホーム学会を開催し  
たことがきっかけで、仙台市グループホーム  
連絡会が誕生するきっかけともなりました。  
今年の日本グループホーム学会全国大会  
を熊本で開催することとなり、実行委員会  
の事務局をオリーブの家が行うこととなり  
ました。現在オリーブの家を事務局に、熊  
本の福祉関係者を中心に大会に向けての準  
備が始まったばかりです。私も仙台大会の  
経験をもとに協力していくことを心から楽  
しみにしております。

今回より6回シリーズで「東日本大震災  
から熊本大会まで」とのタイトルで、東日  
本大震災のこと、熊本地震のこと、本年開  
催の熊本大会までのことを、福祉現場から  
の思いを中心に寄稿させていただく予定で  
おります。

熊本大会までの道のりは私にとっては大  
さにアメイジングな道のりだったので、ま  
すべてのことに感謝し、書いていきたいと  
思います。

どうかよろしくお願いします。

#### 横谷 聡一

よこや・そういち



1972年生まれ。1998年より精神障  
害のある方々の支援に従事。宮城県仙台市  
で障害福祉サービス事業（グループホーム、  
生活介護、就労継続支援B型）を運営する  
社会福祉法人みんなの広場の理事長、総括  
所長をつとめる。  
東北福祉大学卒業、日本グループホーム学  
会副代表、日本グループホーム学会仙台大  
会事務局長、仙台市グループホーム連絡会  
副会長、東北福祉大学特別講師。2020年  
ハーベスト聖書塾を卒業（第39期生）。



オリーブの家で  
見つけた笑顔



16歳の時に父親を亡くしたNさん。すでに仕事についていたお兄さんに代わってお母さんと二人で田畑を作ってきた長い経験があります。おしゃべりは得意ではありませんがもくもくと耕運機を動かして仕事をしています。ほくほくとした畝がいくつもできていました。

幼い時から家庭にめぐまれなかった80代後半のOさん（もうすぐ誕生日です、おめでとうございます！）。Nさんのそばで一心に周りの草をクワでかいてゆきます。二人は親子のように畑で一緒に頑張っていました。

副理事長 小原順子



2023年12月～2024年2月会計報告

		12月	1月	2月
月次自立準備支援人数		5名/6室	4名/6室	3名/6室
グループホーム利用者数		8名/8室	8名/8室	8名/8室
累計ファミリー数		157名	157名	157名
収入	自立準備ホーム	965,960	812,592	733,746
	献金	1,089,740	1,021,500	905,100
	グループホーム	2,269,868	2,009,818	1,932,574
	その他	133,153	70,000	136,192
収入合計		4,458,721	3,913,910	3,707,612
支出	家賃	457,600	457,600	465,600
	水道光熱費	193,456	240,901	227,704
	食費	516,944	582,369	428,469
	人件費	2,277,969	2,160,360	2,030,944
	活動費	194,262	46,071	50,053
	その他経費	600,833	478,860	539,696
支出合計		4,241,064	3,966,161	3,742,466
収支合計		217,657	-52,251	-34,854

前月繰越現金預金残高	3,916,388	4,803,957	4,201,111
翌月繰越現金預金残高	4,803,957	4,201,111	4,494,612
施設準備積立金残高	2,650,093	2,700,093	2,750,093

※ その他費用には、外灯工事費、LED照明工事費 165,600円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ  
先日のオリーブの家の研修会のことです。傾聴実習でテキストにある悪い対応と良い対応のそれぞれを同じ人が演じることになりました。でもスタッフの一人は同じ対応：、「あれっ」と思いましたが、彼は一生懸命に寄り添おうとして悪い対応を演じられないことに気づきました。温かき、いや熱いものを感じました。現場は皆、熱く懸命です。引き続きのご支援よろしく願います。

理事 辻村真和

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：0182）  
京町支店（支店コード：156）  
口座番号：（普通）1574408  
口座名義：NPO法人オリーブの家  
トクヒ オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）  
口座番号：17180-5444801  
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家  
口座名称（カナ）：トクヒ オリーブノイエ  
（他銀行からお振込の場合は）  
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）  
店番：718  
口座番号：（普通）0544480



月刊オリーブ  
2024年4月1日発行  
（毎月1回発行） 第107号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」  
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201  
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com  
http://seishoforum.net/olive-house/about/

